試驗ヲ受ケタル者ニシテ
驗ヲ受ケ再試驗ヲ行フ
試驗ニ落第スルトキハ三ケ
ヘ一ケ年ノ後ニ再試驗ヲ
學期中ノ式休業ハ毎年既
十四日マデ八月一日ヨリ
ヨリ翌年一月十日マデト
外ハ旅行或ハ歸省ヲ許サ
スルハ此限ニ在ラス（第三
ヲ願フ者ハ其府縣廳ノ
面ノ者ハ其府縣廳ノ
ヲ添ヘ身元引受人ヨリ合
歸省中本人發病ノ期限
手續ヲ以テ願出ツ可シ
席シ能ハサルトキハ必ス身
出ツ可シ但シ闕席三日以
ノ後ヲ要ス（第三十
許サル然トモ一家ノ安危
受人ヨリ其理由ヲ詳細ニ
ハ其府縣廳ノ後書ヲ以
生徒ハ本項中ノ一
行不良或ハ怠惰ニシテ
者ハ第二小試驗ノ成績
者ハ第三傷痍疾病等ニ
四條生徒ハ第二十
ヲ限リ身元引受人ヲシテ

第二項ハ據リ之レ
心得ニ據リ昨十四年八月
来タ小學科三ケ年ノ課程
修ノ事故アルモノハ第
ルニ年齢十三歲以上ノ
ノ雇人トリアルモノハ
ヲ解カシムル等事實行ハ
ル場合ニ於テ事實不得已
ヲ年ノ課程ヲ卒ヘサルモ
相伺候修ヲ爲何分ノ御指

一家貧富ト日ノ長キモノ
ハサルノ事故ト認ノ可然
分ノ御指揮相仰候也
ノ助力ニヨリ一家ノ生
ノ能ハノシテ他人ノ供

同　同　人

丁第四號事務所下ヨリ開與シタルグチブロク第一等勳章ヲ
受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

時事新報

偶感

夜陰ニ會ハヤレハ破燈ヲ補ヘス暴風ニ遭ハヤレハ朽柱ヲ
支ヘザルハ是レ事常人ノ怠惰ナル狀態ニシテ天ノ未タ陰
雨セザルノ前ニ屋戶ヲ綢繆スルガ如キ豫防ヲ全レルハ希
有ノ注意ト謂フ可キリ然ルニ愛ニ人アリ夜陰至ルモ破
燈ヲ修メズ暴風來ルモ朽柱ヲ支ヘズ遂ニハ燈消ニ滅シ柱
將ニ倒レントスルヲ知レ猶之ヲ修補支持スルノ着手ヲ
間カズ仍テ其庫中ニ就テ紙片木材ノ有無ヲ問フトキハ家計
固ヨリ富饒ナリザレハ全ク紙片木材ノ欠ニ非ス樓ニ存
スル所ノ紙片ハ未タ破レザルノ窓戶ヲ補ヒ其木材ハ未タ
朽ザルノ厨廚ヲ修スニ用ヒ破燈朽柱ハ目下之ヲ修補ノ
備ナレト答ヘハ人情ヲ之ヲ何トカ謂ヒン必ノヲ經濟ニ
手キモノト云ハノ又流ノ具内情ヲ探レハ一家數日產双相
投セズ好惡各殊ナルガ爲メ一家ノ紙片モ各人所用ノ目的
ヲ異ニシ甲ノ是トスル所ハ乙ノ非トスル所トナリ終ニ破
燈ヲ措テ窓戶ヲ補フノ非策ニ出ツ是以テ元來ノ不如意ハ
愈不如意ノ外相ヲ示シ隣里ノ非難ヲ招ク至レハ若シ此
數日ノ家人ヲシテ同心協力一家ノ盛衰ヲ先ニシ各自ノ好
惡ヲ次ニセシメハ家計必シモ困難ニシテ破燈朽柱時ニ及テ
之ヲ修支ノ費ハ餘裕ヲ生ヲ大書反目クレハ家
封ノ家モ衣食ノ厭ヲ告ルモノトリ況ンヤ一家數日各好
惡ヲ殊ニスルニ於テヤ

前記ハ我隣里ノ一小衝事ナレハ亦以テ當路有ノ鑑戒ト爲
ス可キモノアリ今ヤ我邦疆土至大ナラスト雖ヒ製作貿易
至盛ナラスト雖ヒ人口衆多ニシテ敵國ノ蠶食ニ之レカノ
ス將自年ノ後ニ生レシ一躍世界ノ文明ヲ攝シ又一躍シテ
東洋ニ雄飛セントスルモ許シ已レモ信シ翹翔ヲ試ルノ際
屋戶ノ綢繆果シテ陰雨ノ前ニ在リヤ否ヲ問フトキハ顧ル世
ノ希望ニ背ケルモノアルニ似タリ尚甚シキハ我隣人ノ如
ク夜陰ニ破燈ヲ修ノ暴風ニ朽柱ヲ支ヘス僅存ノ紙片木
材ハ他ノ厨廚窓戶ヲ補繕スルニ用ヒシルヘノ慨ナキ能ハ
サルノ惜ム可キノ極ナラスヤ海洋四圍ノ邦土ニ居レハ政
府ノ着手ノ可キ事業中至急ヲ要スルモノハ鐵道鐵路ニ
先キナルハナシ故ニ卅年來識者ノ論スル所千言万章建議
ニ著書ニ新聞ニ演說ニ既ニ已ニ論究シ竭セリ且我藩紙ノ
如キハ國權擴張ヲ主眼トスレハ三月一日豪刑ノ后累篇章
章大ニ政府ノ着手ヲ促シ今直接々ノ議ヲ要セサレ
ハ時機ノ到來又一事ノ動見ヲ聽スルノ暇ヲ得ス徒ラニ
目下我國ニ大關係ヲ有セル事業ノ俄興セル觀ヲ國ハ何時
ハ國ヲ東洋ノ一小國ニシテ而カモ久シク海外ノ交通ヲ

絶チ世界ノ兵塵ニ何等ノ沿革アリシヤヲ知ラザルモノナ
リ獨リ我國ノ閉鎖ヲ以テ近隣交通ノ緒端ヲ開キ文明ノ事
業ヲ學ハントシテ僅ニ一歩ヲ進メテ目下一大觀念ヲ爲シ
タルモノナレハ之ト兵事ヲ以テ相見ルガ如キハ恰モ戈ヲ
執ルノ大人ト棍ヲ持フノ小兒トノ如ク易中ノ易ナレハ顧
慮ヲ要セサレ今般ノ事變ニ遭ヒ我兵備ノ厚薄如何ヲ顧
ルトキハ昇ヲ朝鮮ニ問フニ論リアルモ事支那ニ遊リ事實國
ニ及ハ、如何ト遣ヒ將來ヲ憂ルトキハ必シモ綢繆ノ脆
弱ナレ憂ト云フニハ非サレ共先ツ心驚テ論小スルモノハ
兵艦ノ脆弱ナリ三十年來ノ用意機ニ實用ニ供スヘキモノ
七八艘ニ過キストスレハ過去ノ實績將來ノ發達トナスヘ
シ當局者ノ用意周到ナラザル可カラス

頃日我政府ハ船艦ノ寡少ヲ憂フルヨリ共同運輸會社ノ創
設ニ百三十万圓ノ資本ヲ貸シ浩乱類用ノ船舶ヲ購造シ大
ニ時勢ヲ濟フノ擧アラントス蒸汽ノ風船帆船十餘ヲ購造
シ有事ノ日ハ裝砲シテ軍備ヲ助ケ或ハ彈藥或ハ兵士ノ運
送ヲ爲サシメ無事ノ日ハ貨物梱包旅客往來ノ用ニ供シ一
擧兩使ノ事業ナリト余輩ノ所見ニテハ是或ハ上古屯田ノ
遺想ニ出ルモノナル可シ居テハ穡穡ノ業ヲ轉リ出テハ戰
鬪ノ用ニ供シ所謂自カラ衣食スルノ兵ナレハ經濟上消費
ヲ省クノ一點ヨリ論スルトキハ此ニ組ユルノ長策ハ世ニ無
カル可キガ如シト雖ヒ經濟上遠世ノ一大發明ト稱揚スル
夫ノ分業ノ一點ヨリ論スルトキハ余輩其利害孰レカ大ナル
ヲ知ル能ハス分業ノ理ニ從ヘハ軍艦ハ軍艦タル可シ商
船ハ商船タル可シ搭造ニ始テ使用ニ至ル迄軍艦商船各其
方ヲ殊ニシ之ヲ兼用スレハ其効用ヲ遲鈍ニスルノ失ナキ
ヲ免レス屯田兵ノ近世ニ行ハレサルモ蓋シ此理ニ由ルナ
ラン經濟上ノ理論ハ之ヲ措キ政府ノ此擧アルハ海軍擴張
ニ在リト聞ケハ余輩ノ希望ハ既ニ遠スルカ如クナレ共
ヲ得テ獨リ望ムハ人ノ常情ナレハ余輩我政府ニ向テ希望
スル所ヲ論スルモ敢テ不可ナカル可シ余輩ハ目下ノ事業
ニ際シ又將來ノ事變ヲ思ヘハ未タ兼用ノ軍艦ヲ以テ滿足
スルヿ能ハス又更ニ專用ノ軍艦搭造アランヿヲ欲スルモ
ノナリ夫ノ共同運輸會社ノ如キハ目下必要ノ擧ナリト雖
ヒ政府ニ於テハ他ノ鐵道會社ノ如ク金額ト年限トヲ定メ
到底ノ利子ヲ保証シ以テ起業者ノ勇ヲ鼓スルニ止ル可キ
ノミ然ルニ曾之ニ貸ス二百三十万圓ノ資本ヲ以テセント
スルハ海軍ノ擴張ヲ專ラナルニ出ル可ケレハ專用軍艦ノ購
買スルノ費金ハ既ニ已ニ豫ナル可シ偶マ余輩ノ之ヲ知ル
ニ及ハサルノミ

之ヲ要スルニ目下軍艦ヲ搭造購買スルハ國家ノ急務ニ
ナリ
僅メ蒸風ニ朽柱ヲ支ユルガ如キ時ニ及テ之ヲ修補スルハ
當局者ノ任スル所ナレハ必ス遺策ナカル可シト雖ヒ國
計遠慮ノ今日ニ當テハ事ノ緩急ヲ例テ着手ノ前後ヲ定ム

ル二尤モ輔議ノ取捨ヲ要ス夫レ[illegible]ハ好惡ニ例セフレテ取捨ハ仲實ニ關サル、木石ニ非ザル人生ノ常態ナリ[illegible]ハ[illegible]ハロク此好惡[illegible]實ヲ脫シテ國ノ長計[illegible]十年ノ後ニ望テ果シテ今日ニ違算ナカリンノ[illegible]ニ[illegible]シ[illegible]一國人ノ事ニ重レテ此論テ作ル

[illegible]報

○[illegible]より歸京せられたる山階宮には昨日青山御所へ[illegible]伺として參內遊ばされたり

○御日錄　岩倉右府には一昨日來不例にて引籠られ居りしが昨日は両皇后宮より御見舞として女官某を差遣はされたりと

○[illegible]國公使赴任　[illegible]駐剳寺島全權公使には夫人及び[illegible]生と共に來る廿二日橫濱拔錨の米[illegible]にて[illegible]より赴任せらるると又[illegible]使も同船にて米國を經て任國へ赴

[illegible]局[illegible]特別通信員より昨一日午前十[illegible]五十分發にて左の電報到達したり

明[illegible]今暮る午后七時朝鮮へ向て出帆の筈

○朝鮮事情　昨日は本社員尹雄烈氏に再び面會して朝鮮事情を承る可くと思ひたるに尹氏は海陸遠路の旅行に大に疲勞をなるに付一日の休息を得たしとのことにて昨日は尹[illegible]面晤せざりし仲の同宿の朝鮮人[illegible]李春植諸氏の話の儘を聞き得たる[illegible]記す

[illegible]二日日曜日）尹雄烈は前夜まで引[illegible]宿直して此日始めて家に歸りて疲を休ひるに[illegible]から仮寐して居たるに郊外物騷がしく乱兵閔謙鎬の邸宅を毀つと聞きヌク寐ころ起れりと直ちに四人轎（朝鮮紳士の乘用せる輿なり修信使が我國に來りたるときも之に乘りたり）四人にてかくはけたる興（あり）に乘り王宮尹氏[illegible]より[illegible]道程凡我廿丁に到りたり此時途中[illegible]來するに遇ひたれども尹氏へは向[illegible]亂入する樣の事はあるまじ[illegible]さゝりし尹氏國王に謁して暴動の模[illegible]を奏さゝる可らずとて王宮[illegible]門に至るに此日[illegible]衛士三十餘名のみ詰居[illegible]居るに衛士等軍器の用意あらず[illegible]別營（武庫）に在る銃器を持來らんと[illegible]を差し[illegible]に受取るまで出來ぬ[illegible]は皆れ[illegible]日本式の[illegible]習

を害し居る兵（[illegible]なり）に有るスナイドル銃を持來るべしとて使を[illegible]せる[illegible]暫くして使の者歸り下都監にて銃器を受取り[illegible]（記者名を忘る）[illegible]來りたるとき銃器を悉く乱兵の爲に奪はれたりと注進せり[illegible]もなく乱兵大闕に詰寄せ閔謙鎬（此時王宮に在り）尹雄烈の両人を渡せと呼はりたり尹雄烈は王に請て曰く兵士等が大闕を犯すは微臣等が此處に在る爲なり今微臣の一命を犧牲にして此乱を鎭靜するを得ば死すとも憾る所なし臣請ふ單身宮を出て賊軍に行かんと國王曰く汝今出て賊中に入らば直ちに屠戮せらるゝは必定なり而して汝の一死を以て此暴動を鎭靜せしとも思はれねば斷る大死せんよりも一先つ此處を脫し[illegible]圖を爲すべしと尹氏も王命默止し難く且つ此暴動は王妃弑殺を云ふ如き大事には至らざると國王も自分も考へたるに付先づ脫走と決意し潛に王宮を出て直ちに城外に出んとするも四門皆暴徒の據る所となりて出るあたはざれば此時尹氏と同行したるは李東[illegible]李春植と今一名にて都合四人連なりしが夜に入り路開く雨大に降る（朝鮮事[illegible]日記に花房公使等が京城を引上げ楊花津に到る途上降雨の爲め衣帽皆濕[illegible]路暗黑とあるに符合す）官服を脫し下民の服に改め草笠（朝鮮にて農民等が用る大形のもの）を深く冠りて面目を包み四人一同城壁に縋りて城を出でたり此中の一名は途中より再び京城に歸りたるが刑戮せられたりと聞く扨同行三人は乞食の姿となり晝伏して夜行き原野山谷道なき場所を擇で旅行したる其辛苦言ふ可らず然るに京城よりは尹雄烈と閔泳翊の人相書を各地方に廻し賞金（金額は聞漏せり）を掛て其逮捕を命じたり且つ王妃にも暴動の翌日（六月十日）弑殺せられたりと聞傳へ尹氏等が驚一方ならず益戒心を加へて人里遠き山野を行かんとすれども食料の貯なきゆゑ忽ち飢渴に迫り止むを得ず人家を訪ねて一飯の施を乞ひたれども[illegible]捕縛せらるゝ恐れあれば人家三軒以[illegible]ある村落に立寄りたることなし京城を距る二百里（朝鮮里程）計り京畿道永平郡の山玉寺に到りたる時閔泳翊に面會したり泳翊は剃髮して緇衣を着け姿を僧に變じ居たり是より四人連にて元山津を志し山玉寺を距ること凡八十里（朝鮮里程）計りの或る山中に來りたるとき泳翊の僕某來り大院君の書翰を泳翊に渡したり其書は閔台鎬（泳翊の實父）と此度の乱に重傷を負ひたれども死に至らず泳翊足下早々歸京すべし若し歸京なきに於ては台鎬始め閔氏一族遺類なかるべしとあり泳翊曰く重[illegible]とは云へ父[illegible]は存命なりて而して我一身の進退を以て其[illegible]

決すと聞き死[illegible]に[illegible]ざるは子[illegible]べしとあるを尹雄烈は推止め[illegible]死固より知る可らず必竟足[illegible]足下今京城に歸り大院君の[illegible]必ず幽囚一[illegible]束縛不自由[illegible]れ身とあるべし寧ろ還らざ[illegible]切論しきれども泳翊聽かず[illegible]就きたり尹氏は推察して閔[illegible]君は決して之を殺さず却て[illegible]家名望に賴と爲すならんと[illegible]雄烈は[illegible]なりしで尹氏[illegible]ざりきゆへなりしが之を知[illegible]如き殘手段を用ひず直ちに[illegible]ふ是より尹氏等三人は偷[illegible]迂にして元山津に達せん[illegible]ず其道ひの一斑を聞く[illegible]が嘯くを聞き大に恐怖し[illegible]間の巖穴に隱れたるもと[illegible]く聲を聞て大に驚き又夜[illegible]たるもとなり京城を出て[illegible]りれ日數一夜も屋內に臥[illegible]雖共必ず山野に露宿し所[illegible]義至極なる旅行なりし又[illegible]虎豹あれど害は少しも怖[illegible]りし今度は生來始めて人間[illegible]と知りたり山に在りて食[illegible]も水のなき所もありて渴[illegible]の葉を噛みて飢を凌ぎた[illegible]と斯くて三人は恙なく元[illegible]は日本人が居留地に入る[illegible]まるを見て居留地內に來[illegible]姿なれば日本の巡査に胡[illegible]人ともに縛せられたるが[illegible]く取扱され日本への船待[illegible]して居りたり此時も居間[illegible]と云へる床の下に潛む用[illegible]も容易ならぬ懇切の待遇[illegible]乘組み釜山へ着港したる[illegible]共上陸せし八月二十四日[illegible]安着尹氏は子息致昊氏と[illegible]たり○大院君が外[illegible]化黨の人々に中ざんとせ[illegible]非ず何れも[illegible]